

がん患者さんへ勇気と希望を与える場“RFLJ” in 川越での 私たち薬学生のチャリティー活動

薬学部 薬学科がんファイターズ 薬学科（YY4） 必須科目 コミュニケーション体験演習

1. コミュニケーション体験演習の目的・目標と、リレー・フォー・ライフ・ジャパン（RFLJ）川越への参画

薬学科必修科目のコミュニケーション体験演習では、生活者の多様な考え方を理解した上で地域社会に貢献するために、専門的知識や技能ではない“総合的能力を養うことを目的に取り組みがされている。

城西大学が関わる集団や地域の活動に参画することにより実践的なコミュニケーション能力を培い、体験から、コミュニティの特性、関係者の思い、課題などを発見そして理解し、課題解決に向けた方策や活動を考える能力を養うことが本科目の目標である。

本科目のプロジェクトの一つとして参加した、RFLJは、「祝う・しのぶ・立ち向かう」をテーマに地域全体でがんと向き合い、がん患者とそのご家族を支援し、がん征圧をするためのチャリティー活動である。
本発表では、がん患者の方との関わりや、RFLJ実行委員会との協同から、得られた学びや気づきについて報告する。

2. チームビルディングと、役割分担

「がんファイターズ」というチーム名で参加
メンバー全員でチームのTシャツを作成

ロゴのテーマ「結（むすび）」：
学生とサバイバー・ケアギバーとの繋がりを表現



チーム内の役割分担

・SNSによる広報

少しでも多くの方、特に現地まで足を運べない方にこのイベントを知ってもらう活動目的

・活動のポスター貼り付け

病院、駅、薬局や学内などの施設に貼ることで、不特定多数の人に直接見て知ってもらう目的

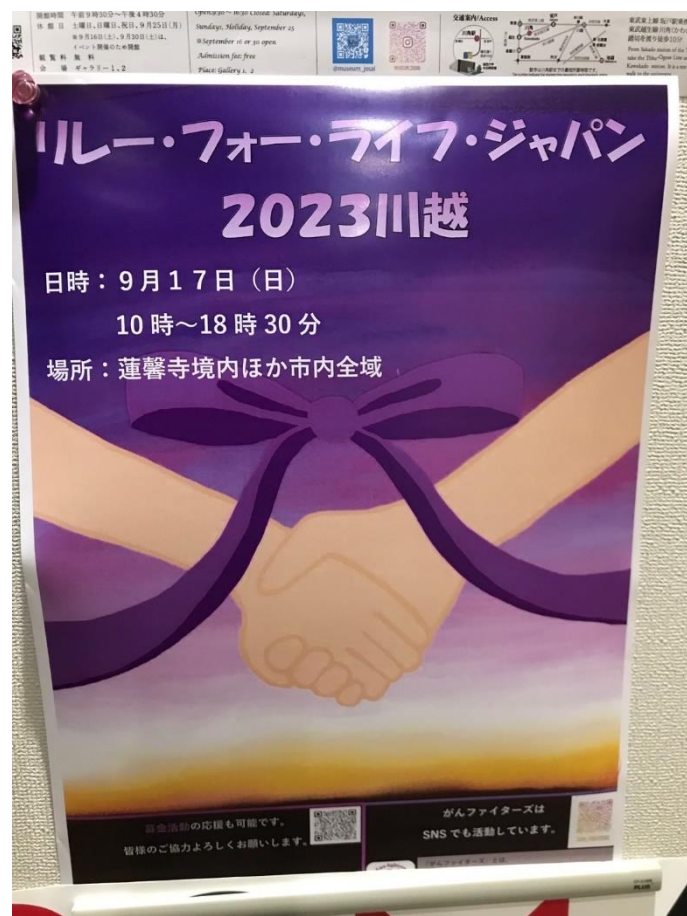
・RFLJの活動内容を記したうちの作成と街頭での配布

暑い季節に手に取ってもらいやすく、手元に残るため、イベントに興味を持ってもらうきっかけを作る目的

3. 当日までの準備と活動の様子



RFLJに欠かせない
チームフラッグとたすきの作成



各施設に掲示したポスター



SNSを利用した広報活動



4.当日の活動の様子

がんファイターズの当日の活動
参加者のそれぞれの想いや願い
をメッセージカードへ記入してい
ただき、それを用いて「HOPE」の
文字のモザイクアートを作成した。



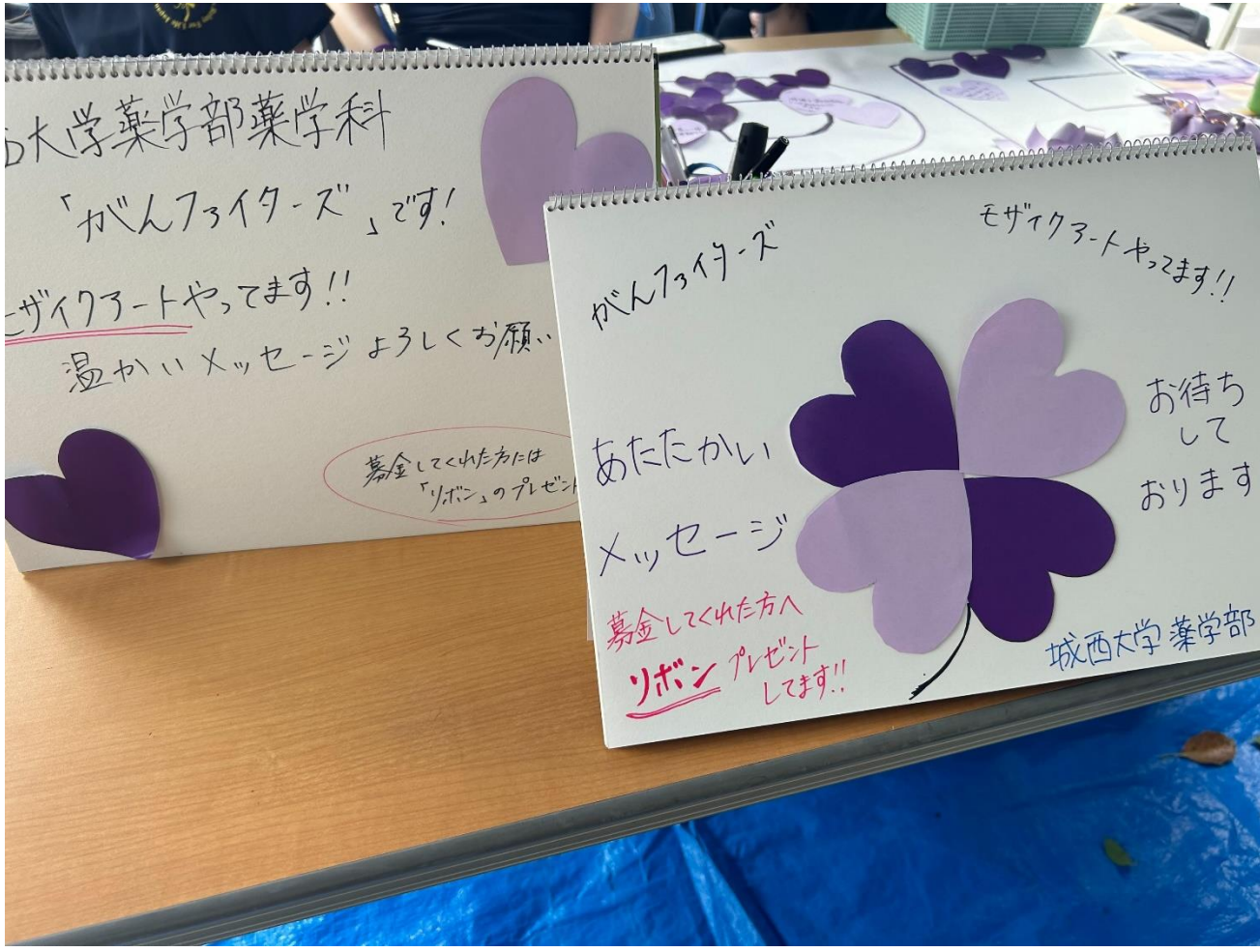
がんファイターズメンバー



サバイバーウォーク



当日ブースでの活動の様子



募金の呼びかけの様子



エンプティータブル



完成したHOPE

4.がんファイターズの活動成果の概要

- がんファイターズ企画への参加人数：28名
- 参加者からいただいた声：
 - 「サバイバーの皆さんが楽しもうとする姿がとてもあたたかかった」
 - 「みなさんでもっとイベントを広めましょう」
 - 「街中でBGMがあるととても盛り上がるかも」
 - 「応援メッセージが多くの人に伝えられてとてもいい活動だと思う」
- 募金額：3,559 円
- ポスター掲示協力施設数(貼り付け枚数)：計29枚
(病院・薬局・ドラッグストア：14枚、城西大学内：8枚、公民館・市役所：5枚、飲食店：1枚、複合商業施設：1枚)

5.活動から得られた気づき・学び

- ・コミュニケーションの大切さ
多様な相手（患者さん）に対して、自身の考えていたことと、相手の考えていることが異なるので、言葉のやり取りは重要
→相手の気持ちや背景の適切な理解→薬剤師として、患者さんへの全人的なサポートにつながる。
チーム内においては、双方向の適切な情報共有や信頼関係の構築が大切。→地域の医療の一員として貢献していくことにつながる。
- ・人と人との繋がり、コミュニティの広さを実感し、繋がっていることで救われている人がいることを知った。
人と人をつなぐ機会や場を提供することは重要で、医療の担い手として貢献できることがあると感じた。
- ・薬学的知識の理解が深まった。